



2019-20 年度地区方針「グローバルに考え 地域社会とつながり ロータリーを成長させよう」

本日 第2357回 2019年12月6日(金) No. 2239

本日のプログラム Today's Program 卓話担当者:古橋 エツ子国際専任委員長

点 鐘 12:30 卓 話 者:森井 晴生さん

ロータリーソング「君が代」 演 題:「ラオスの現況と海外実習制度について」

前回 第2356回 2019年11月22日(金) 記 録

○出席者:会員 25 名中 18 名出席 出席率 72.00%

会長あいさつ 加藤 清久



本日は、市長をお迎えしての会長挨拶、社会インフラソフトの重要性についてお話します。

戦後、私たちは丸裸から懸命に働き衣食住を充実させ世界に伍する国に成長させました。そして、医療においても、最近、私が経験した2つの事例、
①友人がゴルフ中滑り骨折救急車で陶生病院 20分
②シニアクラブのメンバー、ゴルフで友人宅へ、何を話しているかトンチンカン、友人の機転、救急車で愛知医大へ20分
でも迅速に治療され無事退院することができました。まさに高度なハードインフラが整備されたおかげです。

しかし、そこに介在する人の判断が悪くいたずらに時間がかかりすぎていたらどうでしょう。

私が経験した過去の災害、伊勢湾台風のとき、私の町の町長、「今度の台風は非常に強い」、全員、避難するようにと、結果はわが町全員無事、他所は数千名の犠牲者を出しました。

最近の台風で浸水地域の首長いわく、「浸水MAPが配布されていましてから」とのまるで他人行儀の発言、皆さん、どう考えますか。

ハードが整備されていても、それに携わる人の判断の良し悪しが大きく結果を左右するでしょう。

「即、判断し適切に処理する」、すなわち、判断力のソフト力がいかに重要かということです。我々の住む社会で、あの人に相談すれば、様々な事件をてきぱき処理していただける、そういう人の養成、組織の構築、まさに、社会インフラソフトの充実が今後整備してゆかなければと思いますが、いかがでしょうか。

我がロータリーも奉仕を掲げる団体、このことを十分留意し奉仕活動を推進せねばと、市長にもお願いして市政に活かしていただければと思った次第です。

幹事報告

- 11/20(水)小牧 RC IMPR 訪問 於名鉄小牧ホテル 古橋裕志 IM 実行委員 出席
- 11/21(木)東尾張分区会長・幹事会 於ホテルオークラレストラン 桃花林
加藤会長、舟橋幹事、山田ガバナー補佐、森井分区幹事、仲澤分区副幹事 出席

疾病予防と治療月間

	12月13日(金)	12月21日(土)	12月27日(金)	2020年1月3日(金)
例	卓話担当者:IM・50周年準備委員会	年忘れ家族会 (12/20 振替)	休会	休会
会	卓話者:箕輪 IM・50周年準備委員長	於:名古屋国際ホテル	(定款による)	(定款による)
予	演題:「クラブフォーラム」	受付:17:30		
定		点鐘:18:00		

ニコボックス

○森市長、ようこそお出でいただきました。卓話よろしくお願いたします。

加藤 清久さん、舟橋 龍秀さん、飯田 幸雄さん
岡本 和士さん、金森 俊輔さん、菊田 利昭さん
桜井 雅博さん、谷口 亜弥さん、仲澤 昌容さん
西尾 輝久さん、古橋 裕志さん、箕輪 良孝さん
森 康美さん、森井 晴生さん、山田 直樹さん

○12RC 会長幹事会行って参りました。補佐の話に耳を傾けながら、酒は飲みませんでした。

加藤 清久さん

○すいませんでした。

仲澤 昌容さん

卓話



「議員から市長へ
いたる道」
尾張旭市長
森 和実

尾張旭市長の森和実です。今日は数年ぶりに、卓話

を務めさせていただき大変ありがとうございます。

先ほど会長からお話が合った医療機関について、本市は近くに総合病院が3つあり、そして診療所等も市内各所に点在しており、大変恵まれており感謝しています。また、豪雨や地震による災害については、比較的、被害想定が小さく、これまでも大きな自然災害は少なく、住みやすいまちとして発展を続けているため、災害に対する危機感が低い市民の方もいると思いますが、今後は、日本のどの地域でも災害が起こる可能性があります。行政にできる防災対応は限られますので、自分の身は自分で守る意識の大切さを市民に伝えていきたいと思っております。

さて、市議会議員から市長になり、その違いや責任の重さを感じる事が多々あります。その一つが「決裁」であり、事業を最終的に決定する役目を任せられます。自分が思いを入れた予算に係る事業を執行するので、当然といえばその通りですが、こうした決断をする度に、責任の重大さを痛感しています。

そしてもう一つは、「議案」についてです。議員時代は、議員からの提出議案が少ないと報道機関などから指摘されることもありましたが、議案を提出する際には大変な労力が必要であり、苦勞することもありました。市長になった現在は、市職員と協力しながら多くの議案を提出していますが、議員時代とは異なる部分で労力が必要であり、その責任を求められています。

市長の重責を常に意識しながら忙しく活動していますが、去る6月2日には第70回全国植樹祭が愛知県森林公園で開催され、市民の皆様を代表し、開催地として歓迎の挨拶をさせていただくという、大変光栄で重要な役を務めさせていただきました。

また、スカイワードあさひでは天皇皇后両陛下をお出迎えし、ご会食（重箱に入ったお弁当）に同席させていただきましたが、緊張感もあり料理の味がどうであったかは、あまり覚えておりません。また、食事中の会話に尾張旭市の話題がなかなか出ず、残念に思っていました。お見送りの際に天皇陛下から「尾張旭はイチジクが有名なのですね」「そのバッチ（SDGsのピンバッチ）はいいですね」などと声をかけていただきました。忘れられない一生の思い出になりました。

実は平成20年度に市議会議長を務めた時、全国議長会東海地区の理事を兼任したことから、秋の園遊会に招待を受けました。当時のロータリークラブメンバーにお祝いしていただきましたが、その時も、現在の上皇上皇后両陛下にお目にかかり、ご招待していただいたことに対するお礼を直接させていただいたことがあります。皇室にご縁があるように感じ、嬉しく思います。

いよいよ来年は市制施行50周年を迎えます。子どもから大人まで市民の皆さんとともに、まち全体でお祝いができるように準備を進めています。尾張旭ロータリークラブの皆さんのご協力をお願いいたします。



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま



2020 学年度奨学金申込み状況

2020 学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士／地区奨励）には、指定校 558 校（「地区を超えた指定校」の重複含む。前年度 540 校）から 1,402 人（1,384 人）が推薦されました。被推薦者の国籍・地域は、中国 53.1%（51.0%）、ベトナム 10.8%（13.3%）、韓国 8.5%（9.3%）、台湾 3.6%（3.3%）、次いでマレーシア、インドネシア、ネパールの順となっています。

課程別の応募状況は、博士課程 21.5%（21.2%）、修士課程 36.2%（37.9%）、学部課程 40.0%（38.7%）と、昨年度に続いて学部課程が、従来の傾向では最も多かった修士課程を上回っています。大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、7 地区 14 校から計 33 人の応募がありました。

寄付金速報 — 米山月間のご支援に感謝 —

10 月までの寄付金は、前年同期と比べて 1.11% 減（普通寄付金:0.01%減、特別寄付金:1.92%減）、約 600 万円の減少となりました。

9 月には寄付累計額がいったん増額に転じましたが、10 月単月の寄付が昨年度より少なく、再び前年度比マイナスとなりました。一方で、「米山月間」である 10 月には、学友からも計 45 万円のご寄付をいただきました。米山学友も含め、多くの方々からのご寄付に厚く御礼申し上げます。上期も残り 2 カ月弱となりました。今後とも引き続きご支援賜りますようよろしくお願いいたします。